

# わが社の地球環境保全への 取り組み



常務執行役員  
田中 信豪  
Shingou Tanaka

人類は、地球がはぐくんできた資源を大量に消費し、大量の廃棄物を排出して発展を上げてきた。そしてその代償として、すべての生命の母体である地球にオゾン層破壊・地球温暖化など、大きなダメージを与え続けている。

このような背景のもと、これまでの社会システムを見直そうという取り組みが、1992年リオデジャネイロで開催された「国連地球環境サミット」で採択された「環境と開発に関するリオ宣言」のキーワード「持続可能な開発」に集約されている。持続可能とは、今、私たちが受けている豊かな地球環境を、子孫の時代のために引き継ぐ意志と責任をあらわしている。

この「リオ宣言」を受けて、国際標準化機構(ISO)が環境管理に関する世界共通の国際規格の検討を始め、1996年にISO 14001「環境マネジメントシステム(環境パフォーマンスの改善を継続的に進めていく仕組みを構築するための規格)」が制定された。

わが国では、経団連が地球環境憲章を発表して、産業界の地球環境に取り組む役割を訴え、当社が所属する日本電機工業会でも「電機業界の地球環境保全のための自主行動計画」が1996年11月に策定され、達成に向けて会員企業が一丸となって取り組みを推進している。

こうした状況をふまえ、当社は「地球環境保全」を経営の最重要課題のひとつに位置付け、1994年8月に「環境対策委員会」を設置して環境に関する取り組みを開始した。“社会や環境に対しては、企業活動を通じて地球環境の保全および人類の繁栄に寄与する経営をします。”を経営理念にかかげ、次のような技術の方向を目指した製品の開発および生産に取り組んでいる。

- ・地球環境を守るための技術
- ・人の健康と安全を守るための技術
- ・新しいエネルギーの活用と省エネルギーのための技術

## ISO 14001 の認証取得活動

1996年、最初の取得予定を青木工場とし、「環境マネジメントシステム」を構築し、第二次中期経営計画(1998年～2000年)の中で全工場が取得する方針が決定された。

1999年3月に青木工場が認証を取得し、12月には富士山工場とテクノロジーセンターで認証の取得をめざしている。

各工場で電力使用量の削減目標を定め、省エネルギー活動を推進している。また、廃油・廃液など廃棄物の削減、A重油・LPG・コピー用紙の使用量の削減、排出された廃棄物の適正分別とリサイクルなど、各工場ごとに目的および目標を定め取り組んでいる。

## 環境に配慮した製品の開発・設計

製品の開発・設計にあたっては、「製品アセスメント制度」を確立して、2001年までに全事業部の主流製品の環境適合設計を推進する。

「小型・軽量化=省資源化」、「高効率化」、「長寿命化」、「再資源化」、「有害化学物質の使用の抑制」などを配慮して、製品の各段階すなわち原材料、組立、流通、使用、回収、リサイクル、廃棄の各段階での環境への影響を評価し、設計に変更を加え、有害な環境影響を低減する。

## 環境関連ビジネスの推進

当社は、通信・コンピュータ分野で貢献してきた電源装置のノウハウを広く社会に提供すべく、自然エネルギーを利用した太陽光発電システムを開発して環境関連ビジネスに取り組んでいる。

さらに、全事業部の製品開発において、高効率および小型・軽量、長寿命など、環境への配慮を製品企画の戦略として取り組んでいる。

ISO 9000シリーズの認証を取得することにより、品質への取り組みを認めていただけるように、当社の環境保全への取り組みを第三者機関に確認していただくことで、客観的な評価を獲得することができる。

すでに、顧客から環境保全を考慮したグリーン調達への対応が求められており、企業が生き残るためには、もはや、「使いやすく、良いものを、安く作る」開発だけでなく、環境に配慮した製品開発が求められている。

……新たなるテクノロジーへの挑戦が始まっている。